



カブトムシのさなぎをもっているけど、どうしたらいいの

自然に似せて観察しよう

飼育箱に、おし固めた土を入れ、土に試験管の丸いおしりの部分などをおしあてながら、カブトムシのさなぎが、ちょうど入るくらいのあなを開けます。そこへ、頭を上にしてさなぎを入れ、上から軽く腐葉土（園芸用品の店で売っている）をかぶせておきます。

毎日観察すると、だんだん色がこくなっていき、頭の部分から殻がひからびてきて、手足のところが殻をつき破るころ、羽化が始まります。まず、頭の部分と手足の殻が破れ、殻はだんだんおし下げられて、羽が出てきます。カブトムシは、あなのかべにつかまりながら、縮んでいた羽を少しずつのばしていきます。羽化が始まって、外側のかたい羽が、黒っぽくなっていくのに、1日かかり、全身がかたくなるまでには1週間近くかかります。その間、カブトムシは、あなの中にいます。その後、あなの外へ出て、飛び立ちます。

自然の中のカブトムシのさなぎ

カブトムシの幼虫は、腐葉土を食べて大きくなりますが、さなぎには、えさはいりません。さなぎになってから、17～19日で成虫になりますから、羽化（さなぎから成虫になる）の様子を観察してみましょう。

カブトムシの幼虫は、自然の中では、さなぎになる時期が近づくと腐葉土の下の、ややかたい土の所までもぐります。そして、体をまわしながら、体の2～3倍の大きさのあなをほり、口から出すねん液で、あなの内側をかためます。2週間ぐらいあなの中でじっとしているうちに、さなぎの体が作られていきます。だっ皮してさなぎになったカブトムシは、オスなら角の形がはっきりできます。頭を上にしたまま、しばらく、あなの中でじっとしています。（監修・中山 周平）

